

そくしんじょうぶつ ぎ
即身成仏義

空 海 著
(抜粋文)

■【原書訓読】■■■■■■■■() = 参考注釈■

...

こんごうちょうきょう
「金剛頂經」に説かく、

ざんまい ぶつぼだい
「この三昧を修する者は、現に仏菩提を証す」

まさ こんごうかい
「当に知るべし、自身すなわち金剛界となる。自
身金剛となりぬれば、堅実にして傾壊なし。我、
こんごうしん
金剛身となる」

...

だいにちきょう
「大日經」にいはいく、

じんきょうつう たいとく だいくうい
「この身を捨てずして神境通を逮得し、大空位に
いうぶ しんひみつ
遊歩して、しかも身秘密を成ず」

しっち おも
「この生に於いて悉地に入らんと欲はば、その
しょう したが まのあた そんな みもと
所応に随つてこれを思念せよ。親子尊の所に
於て明法を受け、觀察し相応すれば成就を作
す」

...

じゆ
頌にいはく。

ろくだい む げ ゆ が
六大無碍にして常に瑜伽なり……体

し しゅまん だ おのおの
四種曼荼 各 離れず……………相

さんみつ か じ そくしつ あら
三密加持すれば速疾に顕はる……………用

ちゅうちゅうたいもう そくしん
重 重 帝網なるを即身と名づく……………無碍

ほうねん さ はんにや
法然に薩般若を具足して

しんじゅしんわうせつちん
心数心王刹塵に過ぎたり

ご ち む さい ち
各五智無際智を具す

えんきょうりき じつかく ち
円鏡力の故に実覚智なり……………成仏

この二頌八句をもって即身成仏の四字を歎ず。

すなわちこの四字に無辺の義を^{がん}含ぜり。一切の

仏法はこの一句を出でず。故に略して^{りょうじゅ}両頌を^た樹

てて無辺の徳を^{あら}顕はす。

…

ろくだい む げ じょう ゆ が
(六大無碍常瑜伽)

…真言者(心)円壇(空)を先ず自体に置け

足より^{ほぞ}臍に至るまで大金剛輪(阿字／地)を成

じ、これより^{むね}心に至るまで^{まさ}当に水輪を思惟す

べし、水輪の上に火輪あり、火輪の上に風輪あり。

…かくの如くろくだいほっかいたいしょうしよじょうの六大法界体性所成の身は、
無障無碍むしょう む げにして互相た が ひに涉入しょうにゆうそうおう相応し、常住不
変にして同じく実際に住せり。故にじゅ頌に「六大
無碍常瑜伽む げ じょう ゆ が」といふ。無碍とはしょうにゆうじぎ涉入自在の義な
り。常とはふ どう ふ え不動不壊等の義なり。瑜伽とはゆ が翻じて
そうおう相応といふ。相応涉入はすなわちこれ即の義
なり。

し し ゅ ま ん だ か く ふ り
(四種曼荼各不離)

…「大日經」に説かく、

「一切如来に三種の秘密身あり。いはく、し字、
いん印、ぎやうざう形像なり」と。

「字とは法曼荼羅なり。印とは、いはく、種種
の幟幟へう じ、すなはち三昧耶曼荼羅さん ま やなり。形とは
ぎやう
さうがうぐそく相好具足の身、すなはち大曼荼羅なり。この
三種の身おのおのいぎじごふに各威儀事業を具す。これをかつま羯磨
曼荼羅と名づく。これ四種曼荼羅なり。」

…猶なほし空光くうくわうの無碍む げにして逆へざるが如し。故
に「四種曼荼各不離」といふ。不離はすなは

ちこれ^{そく}即の義なり。

(^{さんみつ か じ そくしつけん}三密加持速疾顯)

…三密とは一には^{しんみつ}身密、二には^{ごみつ}語密、三には^{いみつ}意密なり。法^{じんじん}仏の三密は甚深微細にして等覺^{けんもん}十地も見聞すること能^{あた}はず。故に密といふ。一一の尊等しく^{せつちん}刹塵の三密を具して、^{たがひ}互相に加入し^{ひしせふち}彼此摂持せり。衆生の三密もまたかくの如し。故に三密加持と名づく。もし^{しんごんぎょう}真言行人^{にん}あつてこの義を^{くわんさつ}觀察して、手に^{いんげい}印契を作し、口に真言を誦じ、心^{さんまち}三摩地に住すれば、三密相応して加持するが故に、早く^{だいしつち}大悉地を得。

…この毘盧遮那^{び る しゃなぶつ}仏(大日如来)の三字の真言(三^{オン}・密^{ボク}・唵^{ケン})、共に一字にして無量なり。

…もし人あつて^{ほうそく}法則を^か闕かずして昼夜に精進すれば、現身に^{ごじんつう てんげんつう てんにつう たしんつう}五神通(天眼通・天耳通・他心通・^{じんきょうつう しゅくみょうつう}神境通・宿命通^{かくとく ぜんじ しゅうれん})を獲得す。漸次に^{ぶつ い}修練すれば、この身を捨てずして進んで^{つぶさ}仏位(如来/菩薩/明王/天部)に入る。具には經に説くが如し。

…この義に依るが故に「三密加持速疾顯」といふ。加持とは如来の大悲と衆生の信心とを表はす。仏日の影、衆生の心水に現ずるを加持といひ、行者の心水、よく仏日を感じずるを持と名づく。行者もしよくこの理趣を觀念すれば、三密相應するが故に、現身に速疾に本有の三身(法身・報身・応身)を顯現し証得す。故に「速疾顯」と名づく。常の即時即日の如く、即身の義もまたかくの如し。

ちゅうちゅうたいもうみょうそくしん
(重重帝網名即身)

…これすなはち譬喩を挙げてもつて諸尊の刹塵の三密、円融無碍なることを明かす。

…かくの如く等の身は、縦横重重にして、鏡の中の影像と燈光の渉入との如し。彼の身すなはちこれこの身、この身すなはちこれ彼の身、仏身すなはちこれ衆生身、衆生身すなはちこれ仏身なり。不同にして同なり、不異にして異なり。

...

ほうねんぐそくさはんによ
(法然具足薩般若)

…「大日經」にいはく「我は一切の本初^{ほんじよ}なり。号して世所衣^{せしよえ}(世間のよりどころ)と名づく。説法等比なく、本寂にして上あることなし」と。

…「我覚本不生^{が かくほんぶしょう}ないし遠離^{おんり}於因縁^{おいんねん}」の偈、及び「諸法本不生^{しよほうほんぶしょう}ないし因業等虚空^{いんごうとうこくう}」、かくの如く等の偈は、みな法然具足^{げ ほうねんぐそく}の義を明かす。

…法然^{ほうねん}といふは、諸法自然にかくの如くなることを顕^{あら}はす。具足とは成就^{き ほんにや}の義、…薩般若^{さ はんにや}とは梵語なり。…翻^{いつさい}じて一切智^{いち ち}智といふ。…

(心数心王過剎塵^{しんじゆしんわう か せつちん} 各具五智無際智^{かくぐ ご ち むさい ち})

…心王とは法界体性智^{ほっかいたいしやう ち}等なり。心数とは多一識^{たい ち しき}(多・区別と、一・平等との相對を認めている識)なり。各具五智とは、一一の心王心数に各各にこれあることを明かす。無際智とは、高広無數^{かうくわうむ しゆ}の義なり。

(円鏡力故実覺智^{えんきやうりき こ じつかく ち})

…いはく、一切の色像^{しきざう}のごとく高台^{たかだい}の明鏡^{みやうきやう}の中に現ずるのごとく如来の心鏡もまたかくの如し。…

(即身の詩)

ろくだい
六大(*)をもってあらわす宇宙の命は、その
活動をさまた妨げさえぎるものがなく、たがいにむす結
びつき合い、常に とけあ 瑜伽(*)っている
(*)六大

身心一如のあまつち法界のいのち軀性を示したもの

- ・地(ア) ^{あ じ しょほうほんぶししょう だいえんきょう ち}阿字諸法本不生(大円鏡智/仏性具足)
- ・水(バ) ^{ば じ り ごんぜつ びょうどうしやう ち}縛字離言説(平等性智/般若の智慧)
- ・火(ヲ) ^{しょうじやう む く ちん みやうかんさつ ち}清浄無垢塵(妙觀察智/因縁の觀察)
- ・風(カ) ^{いんごう ふ か とく じやうしよさく ち}因業不可得(成所作智/無我の働き)
- ・空(キヤ) ^{とう こく とう ほっかいたいしやう ち}等虚空(法界体性智/宇宙の根源)
- ・識(ウシ) ^{が かく}我覚(心識の作用で、悟りの智となる)

(*)^ゆが^が 瑜伽

梵語でYoga、相応・こたえあい・とけあうこと

四種の曼荼羅(* /さとのよ)それぞれは、真
 実相をあらわし、相互に深く連携しあって、
 そのままに離れることがない

(*)四種曼荼羅

- ・法曼荼羅 (字)
ほう
- ・三昧耶曼荼羅 (印)
さんまや
- ・大曼荼羅 (形)
だい
- ・羯磨曼荼羅 (字・印・形の身に具す各事業)
かつま

3-身の妙用

人間の動作の三密(身体・言葉・意のはたらき)を一心に、ホトケの動作(三密)と通じさせようとすれば、それが不思議な働きによって応じ合うとき(*加持)、速^{すみ}やかに悉^{しっじ}地(*かないごと)が現れる。

(*加持)

ホトケの大悲の力が人びとに加わり、人びとの信心がホトケのそれに応じて、互いに感応すること。ホトケの不思議なはたらき。

(*悉地)

シッディ siddhi 密教の行法・実修を行ってその修行の目的が成就すること。

4-身の無碍

あらゆる一切の身が帝網^{たいもう}(*)の珠さながらに幾重にも重なり合いながら映し合い、照り合うのを、名づけて即身(この身このまま)という
(*)帝網

帝釈天の宮殿に張りめぐらされているという網

(成仏の詩)

5-法爾の成仏

あらゆるものは法爾自然ほう に じねん(あるがまま自然と
そうなる)に、すべてを知る智さ はんにや(薩般若)そなを具え
ており、量り知れないほど多くのホトケの姿を
している

6-心識の無数

その本初仏の表現であるすべての人々には、
心数しんじゆ(心の作用)、心王しんわう(心そのもの)がそなわ
っており、それは際限なく無数に存在している

7-輪円の正智

その心識そのものが転じて智となるが故に、
各々、如来の五つの智慧(*)と無限のはたら
き(無際智)が十分に備わっていて欠けること
がない

8-成仏の所由

その智慧をもって一切を現じ、すべてを明ら
かな鏡のように照らすとき、真理に目覚めた
智者となる

しょう じ じっそう ぎ 声字実相義

空 海 著
(抜粋文)

■【原書訓読】■■■■■■■■■■()=参考注釈■

...

それ如来の説法は、必ず^{もんじ}文字^よに藉る。文字の所在は、六塵^{ろくちん}その体なり。六塵^{もと}の本は、法^{ほう}仏^{ぶつ}(絶対真理を身体とする仏・大日如来)の三密^{さんみつ}(身体^{しん}の秘密・言葉^{ごんご}の秘密・意^いの秘密)すなわちこれなり。
^{びやうどう}平等^{ほうかい}の三密は、法界^{じやうごう}に遍^ごじて常恒^ちなり。五智^{ししん}
四身^{ししん}(自性法身、受用法身、變化法身、等流法身)
は、十界^{じっかい}に具^くして欠^けけたることなし。

...

声字実相とは、すなわちこれ法^{ほう}仏^{ぶつ}平等^{びやうどう}の三密^{さんみつ}、衆生^{しゆじやう}本有^{ほんぬ}の曼茶^{まんた}なり。

...

^{ないげ}内外^{ないげ}の風氣^{ふうき}、わづかに発^{はつ}すれば、必ず響^{ひびき}くを名^なづけて声^{こえ}といふなり。響^{ひびき}は必ず声^{こえ}に由^よる。
声^{こえ}はすなはち響^{ひびき}の本^{もと}なり。声^{こえ}発^{はつ}つて虚^{むな}しからず。必ず物^{もの}の名^なを表^{あらわ}するを号^{ごう}して字^じといふな

(＊五大) 五智

- ・地(ア)^{だいえんきょう ち}大円鏡智…鏡の如く万物をあらわす智慧
- ・水(イ)^{びやうどうしやう ち}平等性智…万物の平等を觀じる智慧
- ・火(ウ)^{みやうかんさつ ち}妙觀察智…万物の差別相を觀ずる智慧
- ・風(エ)^{じやうしよさく ち}成所作智…なすべきことをなしとげる智慧
- ・空(オ)^{ほっかいたいしやう ち}法界体性智…真理の世界の本性を明らかにする智慧

2-文字の真妄

十種の世界(＊十界)^{じゆっかい}は、言語を具し、言葉をもっている

(＊十界)^{じゆっかい} あらゆる生命の存在領域

- ・地獄界(ちごく)…恐怖(さいな)に苛まれる世界
- ・餓鬼界(がき)…強欲(き)と飢餓の世界
- ・畜生界(ちくしやう)…欲望のまま生き死ぬ世界
- ・修羅界(しゆら)…妄念と鬭争だけの世界
- ・人間界(にんげん)…人間の住む世界
- ・天人界(てんじん)…喜びの世界に住む人
- ・声聞界(しやうもん)…教えを聞き解脱する者
- ・縁覺界(えんかく)…ひとりでに解脱する者
- ・菩薩界(ぼさつ)…衆生と共に歩む行者
- ・仏界(ほとけ)……仏陀、目覺めた者

六道輪廻の世界

3-内外の文字

六種の認識対象(*六塵^{ろくじん})は、その体性の意味をあらわす、ことごとく文字である

(*六塵^{ろくじん}) 六境ともいう/迷妄・煩惱を起こす対象

- ・色^{しき} (色、形) ←眼識
- ・声^{しょう} (声、音) ←耳識
- ・香^{かう} (香、匂い) ←鼻識
- ・味^み (味) ←舌識
- ・触^{そく} (感触) ←身識
- ・法^{ほう} (こころ) ←意識

(参考)

↓般若心経の教説

むげんにびぜつしんにい
無眼耳鼻舌身意

むしきしょうかうみそくほう
無色声香味触法

むげんかいにいしむいしきかい
無眼界乃至無意識界

...

4-実相の体性

五大と六塵と十界とを貫く体性が法身^{ほっしん}(*)にして、そのはたらきは実相であり、真理の体现者はあるがままのすがたである

(*法身^{ほっしん})

宇宙すべての存在の根源である、永遠不変の真

理そのものを身体とするホトケ(大毘盧遮那如来/^{だいびるしゃなによらい}

^{だいにちによらい}
大日如来)。

(参考文献)

- ・「現代語の十卷章と解説」訳・著:梶尾祥雲(高野山出版社1975年)
- ・「弘法大師空海全集(第二巻)」同編輯委員会、訳注:松本照敬、他(筑摩書房1983年)
- ・「空海即身成仏義」訳・解説:金岡秀友(太陽出版1985年)
- ・「空海コレクション(2)」監修:宮坂宥勝、訳注:頼富本宏、北尾隆心、他(筑摩書房2004年)